

## 令和5年度 府立清明高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 計画段階

学校経営方針(中期経営計画)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「自分を知り、人とかわかり、ポジションをとる人」を育成する。 そのために、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒に自信を返す。</li> <li>2 安心して失敗できる環境づくりを推進する。</li> <li>3 「教え込む教育」から「引き出す教育」への転換を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 AI型学習アプリを用いた自学自習型の学び直し「フレスタ」や多面的・総合的な評価の導入により生徒の学習意欲が高まった。今後は生徒が主体性を発揮し、学ぶ楽しさを実感できるためのさらなる工夫が求められる。</li> <li>2 希望・選択・ボランティア制の導入やプチイベントの実施等により学校生活への積極的な参画が見られた。今後も主体的・協働的な活動や社会参画の機会の充実を図ることが望ましい。</li> <li>3 生徒情報の一元化や潜在的ニーズの把握等により、学習者起点による学校の魅力化が進んだ。</li> <li>4 校内体制の確立により、個々の生徒に応じた指導の充実を図ることができた。今後もあらゆる教育活動のユニバーサルデザイン化に向け、外部連携や校内研修をより発展的に推進していくことが求められる。</li> <li>5 持続可能な教育活動を実現するため、長時間労働の解消はもとより、「働きやすさ」や「働きがい」を感じつつ、健康や精神的な充足感を得られる職場づくりが求められる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「学ぶ楽しさ」を提供するため、指導と評価の工夫改善や授業のデジタルトランスフォーメーションのための研究・実践を行う。</li> <li>2 サードプレイス(家庭でも学校でもない場所)の活用と探究活動の導入を進め、生徒の主体的・協働的な活動や社会参画の機会を増やす。</li> <li>3 「生徒をリスペクトする」という信念を共有し、内外の評価を活用しつつ、学習者起点による学校の魅力化を図る。</li> <li>4 教育活動のユニバーサルデザイン化に向けた本校ならではの手法を研究・実践する。</li> <li>5 ダイバーシティとワークライフバランスに係る取組を進める。</li> </ol>

領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	学校の魅力化を図る校内組織の配置と開催	教科・分掌横断的な会議を新たに設定し、教員の主体的・協働的な取組や提案により、新規事業の立ち上げやティーチャーズバイブルの作成、校内規定の見直し等を行う。		
	持続可能な教育活動の実現	教職員の情報共有や研修のデジタル化・オンデマンド化を推進し、教職員の力量の向上とワークライフバランスの向上との両立を図る。		
学習支援	指導と評価の一体化	毎時間の授業において生徒を総合的に評価し生徒へフィードバックすることと、授業のあり方を改善し続けることができるようにする。  教職員が生徒を尊重した「学習者起点」に立つことを前提として、「教え込む授業」から「引き出す授業」への転換を図る。		
	個別最適な学びの推進	生徒を主体とした、生徒自身が方法や目標を選択できる授業を推進するために、公開授業週間や研修を通じてUDやDXをさらに進め、教育資源を有効に活用する。  「できることをもっとできるようにする」長所の伸長や、「できるようになりたいこと」に生徒が主体的に学習し成長できるよう、個に応じた学習を推進させる。		

領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒支援	学校生活におけるソフト・ハード両面でのユニバーサルデザイン化の推進	生徒指導におけるティーチャーズバイブルを作成・共有し、全教職員が共通理解して生徒の成長を促す生徒指導や生徒をリスペクトした生徒指導を行えるようにする。				
		ワーキンググループや生徒会において、校則・ルールなどのソフト面や施設・設備面などのハード面の課題について議論・検討し、あらゆる生徒が過ごしやすい学校づくりを進める。				
	個々の生徒の特性を生かした活動や社会参画の場の充実	つばめ祭・つばめ杯などの各種行事において、生徒が自己の特性を生かして主体的・協働的に取り組むことができるよう活動内容の充実を図る。				
		生徒が自己の可能性に気づききっかけとなるよう、外部と連携したイベントやボランティア活動など社会参画の機会を創る。				
進路支援	キャリア教育の充実	LHR進路学習での計画的・系統的な進路ガイダンスの実施を通じて、キャリア教育の充実を図る。				
		社会的・職業的自立に向け、インターンシップやボランティア活動、高大連携など、外部機関と連携を行い、生徒の主体的な社会参画の機会を増やす。				
	個別最適化とダイバーシティに係る取組の推進	個々の生徒のニーズに応じた進学や就職に向けての支援を充実する。				
		進路情報を生徒に適切に提供し、生徒自ら進路実現に向けて選択し実行することができる機会を設定する。				
教育相談	特別支援教育の充実	生徒のニーズや特性に応じた通級指導「みらい+」のカリキュラムを作成する。				
	生徒理解力・コミュニケーション力の向上	他者を尊重するコミュニケーションのあり方や手法について、研究・実践する。				
総務企画	広報活動の充実	生徒主体のオープンキャンパスや生徒リポーターによるTwitter活用等、生徒の主体性を重視し、清明高校の魅力を生徒目線で発信する広報活動の充実を図る。				
		より身近で効果的に清明高校を紹介するために、360°カメラやVR等の機器を効果的に使用し、YouTube配信やTwitter、学校説明のオンデマンド動画等の広報活動を企画、実践する。				
	ICTを利用した授業改革	ICTを用いたさらなる教育方法を研究・共有し、従来の授業形態を変容・再定義する「授業のデジタルトランスフォーメーション」を全教員が実践する。				
	図書館の効果的な活用	生徒の探究学習や自主的な学びを支援するとともに、学校内でのサードプレイスとしての機能を高める。				

領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
F年次	自己肯定感や自己理解を高めさせる 様々な学習に取り組む経験の提供	総合的な探究の時間や特別活動では、多様な生徒の実態を加味し、参加しやすい内容設定や取組方法を工夫する。			
		取組の結果だけでなく、取り組んだ事実やプロセス、努力等に対する肯定的評価を意識的に行う。			
	多様性を理解し、自他の安心や安全 を意識させる機会の充実	授業や特別活動等を通して、心身の健康や基本的な生活習慣、他者に配慮したコミュニケーションやマナー等に関する事項を指導する。			
		学校における行動観察に加え、家庭や関係諸機関との連携による生徒の実態把握に努め、多くの生徒が安心して学べる環境を整える。			
M年次	学習・生活環境調整の充実	生徒のニーズを適切に受け取り、デバイスや校内システムの活用や外部機関と連携しながら、学習環境を整える。			
		学校行事や総合的な探究の時間を通して、他者と関わる機会を設定することで、お互いを認め合う寛容な雰囲気を作り出す。			
	他者との関わりから自分の役割を見 つける機会の提供	学校行事や総合的な探究の時間を通して、自分の興味関心に合わせた役割を担うことにより、長所の伸長を図り、自分の責任を果たす機会を提供する。			
		学校行事や総合的な探究の時間を通して、地域に関わることにより社会経験を重ねる機会を持ち、他者理解を深め、自分の役割を見つける機会とする。			
S年次	主体的・協働的な活動の充実	HR活動や総合的な探究の時間、学校行事等を通して自分の果たす役割について考えさせ、その役割を全う出来るように支援する。			
		自らの苦手なことに気づき、支援の要・不要を整理させ、従来は敬遠したような内容にも積極的に参加するよう促す。			
	社会参画の機会の充実	総合的な探究の時間を活用して社会と学校について考える機会を作る。学校行事でも地域との連携を通して社会参画について考える。			
		ワークライフバランスの適正化を図り、大人が楽しく社会生活を送っている姿を見せることで、理想的な大人のロールモデルを生徒に示す。			
G年次	VUCA時代を生き抜く力の育成と、 個々のライフプランに基づく進路選択 の支援	様々な集団活動に主体的に取り組み、自己の適性に合った取組方法を試行錯誤させる中で社会で自分を生かす力を育成する。			
		各関係分掌や家庭、関係機関との連携や進路に関する個々に応じた情報提供を通じてきめ細やかな支援を行い、進路実現につなげる。			
	指導のユニバーサルデザイン化と個 別支援による多様な生徒の学校生活 の充実	多様な生徒が誰一人取り残されることなく学びの場に参加できるようにするために、本校のICT環境を最大限に生かした支援を行う。			
		各関係分掌や家庭、関係機関と綿密に連携する中で、生徒の教育的ニーズに対応したサポートを行い、安心した学校生活を送ることができるようになる。			

領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
事務部	生徒が学ぶ楽しさを実感し、また学校生活の中で、自信と社会的実践力を身に付けられるような教育環境の整備	教科・分掌と連携し、必要な教育環境を整備し、また時代に対応したICT機器の整備更新を行う。			
		生徒が安心して学校生活を送れるよう、就学支援金及びBYOD購入支援制度による支援を適切に実施する。			
	ワークライフバランスを実践するための働きやすい職場環境整備の推進	教職員の業務負担を軽減できる方策を検討する。			
		教職員がより働きやすい職場環境づくりを推進する。			

(評価の基準 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった)